

田尻町文化財調査報告 第9集

田尻町内遺跡群発掘調査概要 4

2003.3

泉南郡田尻町教育委員会



はじめに

人間が住みよい環境を創造するために行われる開発がもたらす、文化財や自然に対する影響は大きいものがあります。特に埋蔵文化財は地中に包蔵されていて普段私達の目に触れる事は、ほとんどありません。地面の掘削を前提とし、埋蔵文化財を破壊してしまう開発と直接に結びつく大きな問題です。

遺跡には、田尻町の先人達のメッセージが埋蔵文化財として託されています。そのメッセージを現在の町民、更には未来の町民に伝えてゆかなければなりません。

本書は、平成14年度埋蔵文化財国庫補助事業として田尻町教育委員会が実施した発掘調査の成果を収録しています。この地域の歴史像をさらに豊かにするための資料として活用していただければ幸いです。

概要を報告するに当たり、調査にご協力いただいた地元の方々並びに関係各位にお礼申し上げるとともに、今後とも文化財保護にご理解とご協力をお願い申しあげます。

平成15年3月31日

泉南郡田尻町教育委員会
教育長 道浦 達久

例　　言

1. 本書は、泉南郡田尻町教育委員会が平成14年度に国庫補助金を受けて実施した、大阪府泉南郡田尻町域における埋蔵文化財緊急発掘調査の概要報告である。
2. 調査は泉南郡田尻町教育委員会社会教育課文化財保護係 中野篤史、阪田裕美子（嘱託）を担当者として、平成14年4月1日に着手し、平成15年3月31日に終了した。
3. 本書における図面の標高はT.P.（東京湾平均潮位）を用い、また方位については磁北を示す。
4. 調査の実施にあたっては、下記の諸氏の参加協力を得た。
高松広志、南 博之、藤田 功、河瀬一裕
5. 現地調査にあたっては、土地所有者をはじめとする工事関係者等多くの方々の協力を得た。
感謝の意を表する。
6. 本書の執筆、編集は中野がおこなった。

目 次

第1章 埋蔵文化財調査の現状

1. 田尻町の位置と環境	1
2. 田尻町の埋蔵文化財調査の現状	1

第2章 調査の概要

各種開発確認調査01	4
各種開発確認調査02	5
各種開発確認調査03	7
各種開発確認調査04	8
各種開発確認調査05	12
各種開発確認調査06	13
各種開発確認調査07	15
報告書抄録	巻末

挿 図

図1 田尻町位置図	1
図2 遺跡分布図	2
図3 調査地点位置図（1/10,000、各種開発確認調査01）	4
図4 調査区設定図（各種開発確認調査01）	4
図5 Tr.1層序図（縦1/40、横1/80、各種開発確認調査01）	4
図6 Tr.2層序図（縦1/40、横1/40、各種開発確認調査01）	5
図7 Tr.3層序図（縦1/40、横1/80、各種開発確認調査01）	5
図8 調査地点位置図（1/10,000、各種開発確認調査02）	5
図9 調査区設定図（各種開発確認調査02）	6
図10 Tr.1土層断面図（縦1/40、横1/80、各種開発確認調査02）	6
図11 調査地点位置図（1/10,000、各種開発確認調査03）	7
図12 調査区設定図（各種開発確認調査03）	7
図13 調査区層序図（縦1/40、横1/80、各種開発確認調査03）	7
図14 調査地点位置図（1/10,000、各種開発確認調査04）	8
図15 調査区設定図（各種開発確認調査04）	8
図16 土層断面図（縦1/80、横1/160、各種開発確認調査04）	9
図17 遺構平面図（1/160、各種開発確認調査04）	9
図18 土坑①実測図（各種開発確認調査04）	10

図19	土坑②、③実測図（各種開発確認調査04）	10
図20	土坑④実測図（各種開発確認調査04）	10
図21	土坑⑤実測図（各種開発確認調査04）	11
図22	溝①実測図（各種開発確認調査04）	11
図23	溝②実測図（各種開発確認調査04）	11
図24	調査地点位置図（1/10,000、各種開発確認調査05）	12
図25	調査区設定図（各種開発確認調査05）	12
図26	調査区層序図（縦1/40、横1/80、各種開発確認調査05）	13
図27	調査地点位置図（1/10,000、各種開発確認調査06）	13
図28	調査区設定図（各種開発確認調査06）	14
図29	Tr.1土層断面図（縦1/40、横1/160、各種開発確認調査06）	14
図30	調査地点位置図（1/10,000、各種開発確認調査07）	15
図31	調査区設定図（各種開発確認調査07）	15
図32	トレンチ1設定図・断面図（縦1/40、横1/80）・平面図（1/80） （各種開発確認調査07）	16
図33	トレンチ2設定図・断面図（縦1/40、横1/80）・平面図（1/80） （各種開発確認調査07）	16
図34	トレンチ3設定図（各種開発確認調査07）	17
図35	トレンチ3断面図（縦1/40、横1/80）・平面図（1/80）（各種開発確認調査07）	17
図36	トレンチ4設定図・断面図（縦1/40、横1/80）・平面図（1/80） （各種開発確認調査07）	17
図37	トレンチ5設定図・断面図（縦1/40、横1/80）・平面図（1/80） （各種開発確認調査07）	18
図38	トレンチ6設定図・断面図（縦1/40、横1/80）・平面図（1/80） （各種開発確認調査07）	18
図39	トレンチ7設定図・断面図（縦1/40、横1/80）・平面図（1/80） （各種開発確認調査07）	19
図40	トレンチ8設定図・断面図（縦1/40、横1/80）・平面図（1/80） （各種開発確認調査07）	19

挿 表

表 1	過去 5 年間の届出件数表	1
表 2	遺跡別発掘届出件数表	1
表 3	届出・通知・試掘依頼一覧	3

図 版

- 図版1 調査地遠景（各種開発確認調査01）
トレンチ1全景（各種開発確認調査01）
- 図版2 トレンチ2全景（各種開発確認調査01）
トレンチ3全景（各種開発確認調査01）
- 図版3 土層堆積状況（各種開発確認調査02）
調査区全景（各種開発確認調査03）
- 図版4 土層堆積状況（各種開発確認調査03）
調査区全景（各種開発確認調査04）
- 図版5 調査区全景（各種開発確認調査04）
土坑①検出状況（各種開発確認調査04）
- 図版6 土坑②・③検出状況（各種開発確認調査04）
上坑④検出状況（各種開発確認調査04）
- 図版7 上坑⑤検出状況（各種開発確認調査04）
溝①検出状況（各種開発確認調査04）
- 図版8 溝②検出状況（各種開発確認調査04）
調査地全景（各種開発確認調査05）
- 図版9 トレンチ1全景（各種開発確認調査05）
トレンチ2全景（各種開発確認調査05）
- 図版10 トレンチ1全景（各種開発確認調査06）
トレンチ2全景（各種開発確認調査06）
- 図版11 トレンチ1全景（各種開発確認調査07）
トレンチ2全景（各種開発確認調査07）
- 図版12 トレンチ3全景（各種開発確認調査07）
トレンチ4全景（各種開発確認調査07）
- 図版13 トレンチ5全景（各種開発確認調査07）
トレンチ6全景（各種開発確認調査07）
- 図版14 トレンチ7全景（各種開発確認調査07）
トレンチ8全景（各種開発確認調査07）

第1章 埋蔵文化財調査の現状

1. 田尻町の位置と環境

田尻町は大阪府の南西部、大阪湾海岸線の中央部に位置し、東は泉佐野市、南西は泉南市に接し、北西は大阪湾に面する。町域は東西約1.7km、南北約2.2kmの四角形を呈し、面積は約3.9平方kmである。関西国際空港ができるまでは町域は1.9平方kmであり、空港島及びりんくうタウンにより町域は倍に増えているが、それでも大阪府下で面積、人口とも小さくまた少ない自治体である。海岸線に並行して南海本線が、町域南部を国道26号線がとおり、泉南地域の基幹交通路となっている。町域の北東部から中央部にかけて田尻川、南西部を櫛井川が流れ大阪湾に注いでいる。



図1 田尻町位置図

2. 田尻町の埋蔵文化財調査の現状

田尻町はこれまで、近隣市町村と比較してあまり開発が及ばなかった地域であったが、近年は建売住宅等ミニ開発が多くなりつつある。平成14年度における文化財保護法に基づく上木工事等による埋蔵文化財発掘の届出は、16件である。そのうち、民間開発が2件、個人住宅建築が9件、公共工事が5件となっている。また、遺跡範囲外での各種開発確認調査のための試掘依頼の件数は2件となっている。過去5年間の届出件数は表1、表2のとおりである。また、平成14年度調査地は表3のとおりである。

	個人 住宅	民間 開発	公共 工事	合計
平成10年度	2	3	5	10
平成11年度	4	4	1	9
平成12年度	4	3	2	9
平成13年度	2	3	7	12
平成14年度	9	2	5	16

表1 過去5年間の届出件数表

番 号	遺 跡 名	平成 10 年 度	平成 11 年 度	平成 12 年 度	平成 13 年 度	平成 14 年 度
1	田尻遺跡	4	6	4	9	15
2	大婦池遺跡				1	
3	船岡山遺跡	2		2	1	
4	嘉祥神社木殿					
5	船岡山南遺跡	1				
6	藤波遺跡					
7	吉見藩陣屋跡	3	3	2	2	1
8	羽倉崎遺跡					
9	櫛井西遺跡					
10	林岩遺跡					

表2 遺跡別発掘届出件数表

遺跡地名表

番号	遺跡名	種類	時代	地目	立地	摘要
1	伊川遺跡	散布地	古墳	田・宅地	平地	土師器、須恵器(散布地)
2	夫婦池遺跡	散布地	弥生～古墳	漁港・湖地	平地	打網用具、貝塚、瓦(須野布池)
3	船岡山遺跡	散布地	縄文～弥生	田・畠地	平地	サヌカ(?) (散布地)
4	彦神社木造建物	近世			平地	彦神社木造建物(昭和60年3月1日)
5	船岡山南遺跡	散布地	弥生～古墳	田・沼池	平地	
6	藤波遺跡	散布地・墓葬跡	中世	田	平地	
7	古見宿禰塚跡	散布地・墳丘跡	中世	宅地	平地	現況は春日神社と既存集落
8	羽合崎遺跡	散布地	古墳	宅地	平地	
9	輕井西遺跡	集落跡	弥生～季世	田	平地	
10	林寄遺跡	その他の遺跡	近世	宅地	平地	陶器器、弥生上器

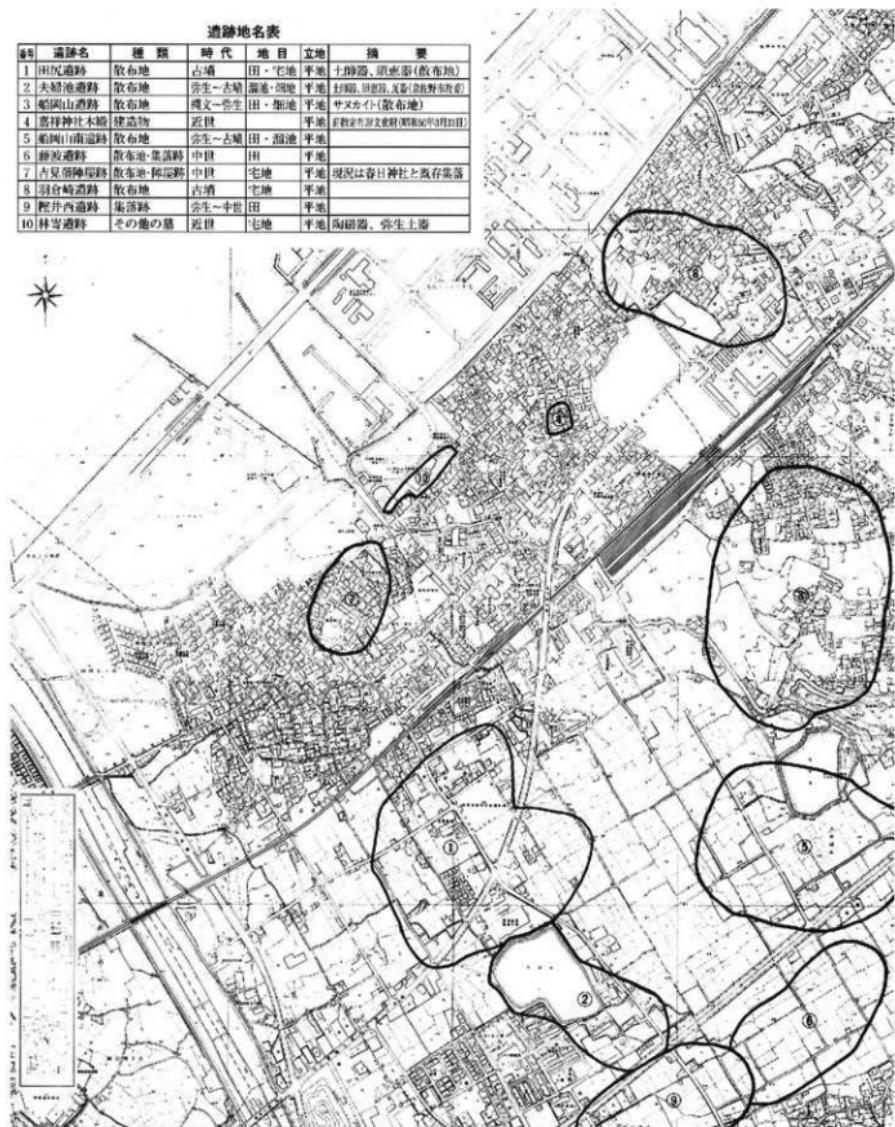


図2 遺跡分布図

	申請者名	申 請 地	原因	遺跡名	指導事項	検出遺構	出土遺物
1	田尻町長水野和夫	川尻町大字嘉祥寺385番地の1及び385番地の33の一部	仮設保育所建築	範囲外	試掘	なし	土師器
2	個人開発事業者	田尻町大字嘉祥寺434-3の一部	共同住宅建築	範囲外	試掘	なし	なし
3	田尻町教育委員会 教育長道浦達久	田尻町大字吉見712番地	下足室建築	範囲外	試掘	なし	土師器、黒色土器、瓦器
4	個 人	田尻町大字吉見253-18	個人住宅建築	田尻遺跡	慎重工事		
5	個 人	田尻町大字吉見253-21	個人住宅建築	田尻遺跡	慎重工事		
6	田尻町長水野和夫	田尻町大字吉見228-2番地先	舗装復旧工事	田尻遺跡	慎重工事		
7	田尻町長水野和夫	田尻町大字嘉祥寺423番地他	保育所建築	範囲外	試掘	なし	なし
8	個 人	田尻町大字吉見253-14	個人住宅建築	田尻遺跡	慎重工事		
9	個 人	田尻町大字吉見253-16、 253-15	個人住宅建築	田尻遺跡	慎重工事		
10	民間開発事業者	田尻町大字吉見419-1の一部	分譲住宅建築	田尻遺跡	発掘調査	溝、土坑、 ピット	須恵器、土師器、瓦器、陶磁器
11	個 人	田尻町大字吉見253番9、 253番10	個人住宅建築	田尻遺跡	慎重工事		
12	個 人	田尻町大字吉見253番11、 253番12	個人住宅建築	田尻遺跡	慎重工事		
13	民間開発事業者	田尻町大字吉見253-27	分譲住宅建築	田尻遺跡	慎重工事		
14	個 人	田尻町大字吉見145-5	個人住宅建築	田尻遺跡	発掘調査	なし	弥生土器、須恵器、土師器、瓦器、陶磁器、瓦
15	田尻町水道事業 田尻町長水野和夫	田尻町大字吉見337-1~ 491番地	水道管埋設	田尻遺跡	工事立会		
16	田尻町長水野和夫	川尻町大字嘉祥寺375番地の1	町営住宅建替建築	範囲外	試掘		
17	田尻町長水野和夫	田尻町大字吉見491~337番地先	公共下水道 管理設	田尻遺跡	工事立会		
18	田尻町教育委員会 教育長道浦達久	田尻町大字吉見1101番地の1	文化財保存 修理工事	吉見藩陣屋跡	工事立会		
19	個 人	田尻町大字吉見253番地23	個人住宅の建築	田尻遺跡	慎重工事		
20	田尻町長水野和夫	田尻町大字吉見020-5	水路改修	田尻遺跡	工事立会		
21	個 人	田尻町大字吉見253番地22	個人住宅の建築	田尻遺跡	工事立会		

*太字は文化財保護法に基づく届出・通知

表3 届出・通知・試掘依頼一覧

第2章 調査の概要

各種開発確認調査01

1. 遺跡名 範囲外
2. 申請者 田尻町長 水野 和夫
3. 調査地 田尻町大字嘉祥寺385番地の1、385番地の33の一部
4. 調査原因 假設校舎の建築
5. 申請面積 2,156m²
6. 調査面積 15m²
7. 調査期間 平成14年4月18日
8. 調査機関名 田尻町教育委員会
9. 位置と環境

今回の調査は、田尻町立保育所建設に伴う仮設校舎の建設に伴い田尻町長水野和夫より依頼を受けて実施した確認調査である。

調査地付近には田尻遺跡や吉見藩陣屋跡遺跡があり、また今回の調査隣接地には、小字名が狐塚という少し地面が盛り上がったところがあり、何らかの信仰に関する遺構等の存在する可能性があるかと思われる地点である。

10. 調査の概要

調査は、校舎建設予定地内に3箇所の調査区を設定し、重機と人力を併用して掘削し、遺物・遺構の検出につとめた。調査区の基本層序は、上から盛土（層厚約80cm）、灰黄褐色粘質土

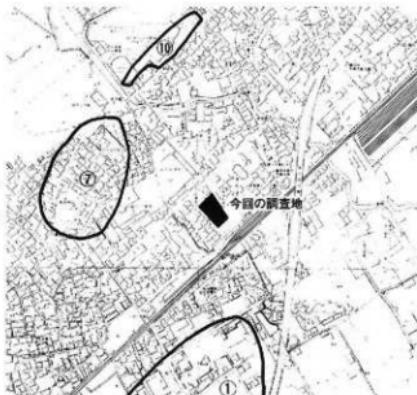


図3 調査地点位置図 (1/10,000)

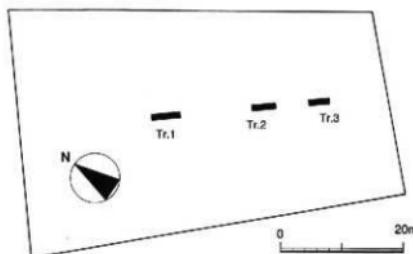


図4 調査区設定図

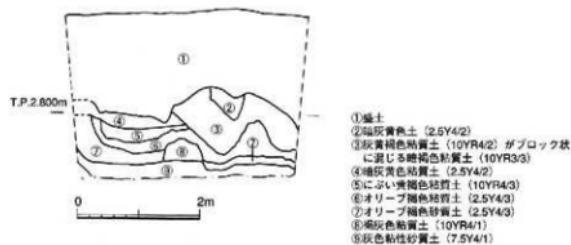


図5 Tr.1層序図 (縦1/40、横1/80)

(10YR4/2、層厚約20cm)、褐色粘質土(10YR4/4、層厚約10cm)、黄灰色粘質土(2.5Y4/1、層厚約15cm)、灰色粘性砂質土(7.5Y4/1、層厚約25cm)の順に堆積している。その下層は褐色粘質土が堆積し、植物遺体などが包含されている。各調査区とも現地表面下約1.5mまで掘削したが、地山面まで到達できず遺構は検出できなかった。遺物は土師器細片が出土している。

11. 調査のまとめ

今回の調査の結果、遺構は確認されなかったが、遺物は出土しているので付近に遺跡が存在する可能性がある。狐塚については、工事予定地外であったため調査を実施していない。また、調査区の上層の堆積状況から褐色粘質土中に多数の植物遺体の痕跡が認められ、湿地であった可能性が高いことが確認することができた。今後の周辺部での調査の進展により明らかにされることを期したい。

各種開発確認調査02

1. 遺跡名 範囲外
2. 申請者 個人開発事業者
3. 調査地 田尻町大字嘉祥寺434番地の3の一部
4. 調査原因 共同住宅の建築
5. 申請面積 461.19m²
6. 調査面積 2m²
7. 調査期間 平成14年5月29日
8. 調査機関名 田尻町教育委員会
9. 位置と環境

今回の調査は、共同住宅の建築に伴う開発



図6 Tr.2層序図（縦1/40、横1/40）

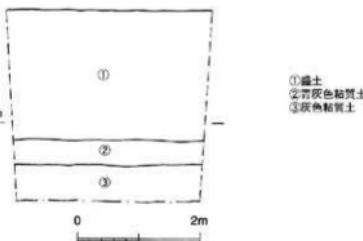


図7 Tr.3層序図（縦1/40、横1/80）



図8 調査地点位置図（1/10,000）

確認調査である。

調査地付近には古見藩陣屋跡⑦や林寄遺跡⑩がある。

古見藩陣屋跡⑦は、田尻町の北部、旧街道（孝子越街道）沿いの標高4m～5mに位置する中世～近世にかけての遺物散布地である。これまでの調査では、粘土採掘坑などが検出されている。遺物は、土師器、須恵器、瓦器、陶磁器が出土している。

林寄遺跡⑩は、田尻町の北部、旧街道（孝子越街道）沿いの標高2m～4mに位置する近世墓地跡である。墓地は近代に紡績工場建設のために移転された。これまでの調査により土坑、スキ溝などが検出されている。遺物は、陶磁器のほか弥生土器、土師器、墓石の一部が出土地でいる。

なお、今回の調査地については付近に古見藩陣屋跡⑦や林寄遺跡⑩があり、中世から近世にかけての遺構等の存在する可能性があると思われる地点である。

10. 調査の概要

調査は、基礎部分に1m×2mの調査区を設定し、重機と人力を併用して掘削し、遺物・遺構の検出につとめた。調査区の基本層序は、上から①盛土（厚約25cm）、②黒褐色土（旧耕土2.5Y3/1、厚約34cm）、③灰黄褐色土（10YR4/2、厚約10cm）、④にぶい黄褐色土（10YR4/3）の順に堆積している。基礎掘削工事が深さ1mまで及ばないため、地山面まで到達できず、遺構は検出できなかった。また、遺物も出土していない。

11. 調査のまとめ

今回の調査の結果、建築物に伴う基礎掘削工事が浅いため、地山まで掘削することができなかっただため遺構、遺物は確認できなかった。しかし、古見藩陣屋跡に近いので中世から近世の遺跡が存在する可能性があるといえる地域である。

今後の周辺部での調査の進展により明らかにされることを期したい。

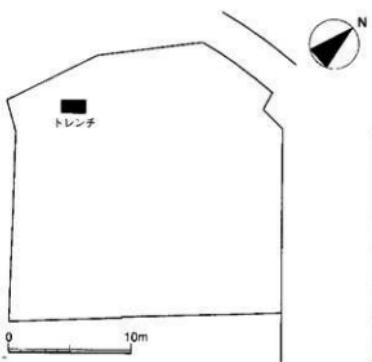


図9 調査区設定図

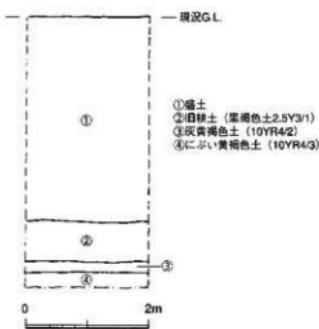


図10 Tr.1 土層断面図 (縦1/40、横1/80)

各種開発確認調査03

1. 遺跡名 範囲外
2. 申請者 田尻町教育委員会
教育長 道浦 達久
3. 調査地 田尻町大字吉見712番地
4. 調査原因 下足室の建築
5. 申請面積 8,599m²
6. 調査面積 7.5m²
7. 調査期間 平成14年7月25日
8. 調査機関名 田尻町教育委員会
9. 位置と環境

今回の調査は、田尻町立小学校の下足室建てかえに伴う吉見藩陣屋跡⑦に隣接するために実施した遺構確認調査である。

吉見藩陣屋跡は、町域の北部、孝子越街道沿いの標高4m～5mの砂州上に立地している。これまでの調査で粘土採掘坑や溝などが検出されていて、また遺物包含層中より、土師器、須恵器、瓦器等の中世の遺物が出土している。

調査地付近には田尻遺跡①や林寄遺跡⑩があり、古墳時代～中世にかけての遺構等の存在する可能性があると思われる地点である。

10. 調査の概要

調査は、下足室建築予定地内中央部に 1.5m × 5 m の調査区を設定し、重機と人力を併用して掘削し、遺物・遺構の検出につとめた。調査区の基本層序は、



図11 調査地点位置図 (1/10,000)

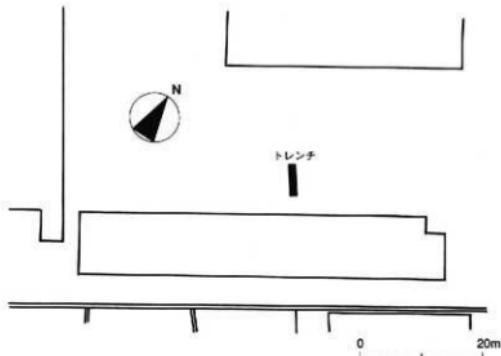


図12 調査区設定図

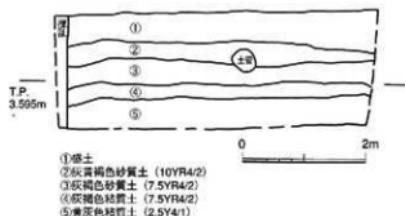


図13 調査区層序図 (縦1/40、横1/80)

上から①盛土(層厚約25cm)、②灰黄褐色砂質土(10YR4/2、層厚約15cm)、③灰褐色砂質土(7.5YR4/2、層厚約20cm)、④灰褐色粘質土(7.5YR4/2、層厚約10cm)、⑤黄灰色粘質土(2.5Y4/1、層厚約25cm)の順に堆積している。さらにその下層にはぶい黄褐色粘質土(層厚約10cm)、暗灰色粘質土が堆積していることを確認した。基礎掘削工事が深さ1mまで及ばないため、地山面まで到達できず、遺構は検出できなかった。遺物は土師器、黒色土器、瓦器等の中世の時代に属する土器の細片が出土している。

11. 調査のまとめ

今回の調査の結果、建築物に伴う基礎掘削工事が浅いため、地山まで掘削することができなかつたので遺構は確認できなかった。しかし、中世の遺物包含層より土師器、黒色土器、瓦器等の遺物が出土しているので付近に遺跡が存在する可能性が非常に高いといえる地域である。

今後の周辺部での調査の進展により明らかにされることを期したい。

各種開発確認調査04

1. 遺跡名 田尻遺跡
2. 申請者 民間開発事業者
3. 調査地 田尻町大字吉見419-1の一部
4. 調査原因 分譲住宅の建築
5. 申請面積 498.63m²
6. 調査面積 36m²
7. 調査期間 平成14年7月30日～8月1日
8. 調査機関名 田尻町教育委員会

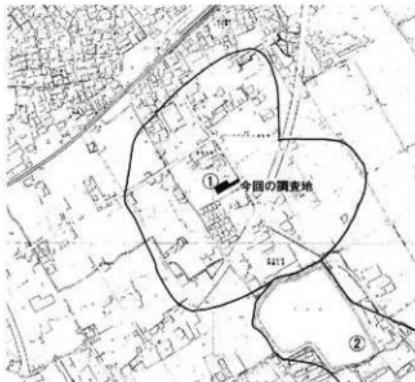


図14 調査地点位置図 (1/10,000)

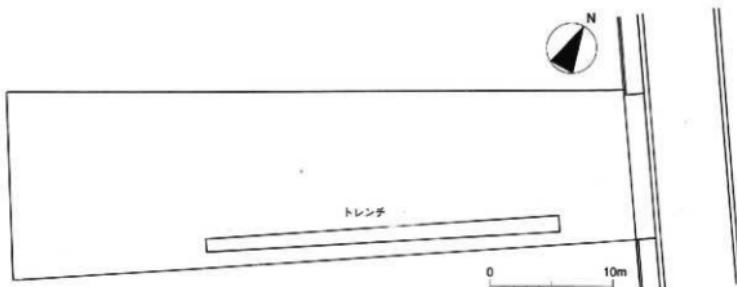


図15 調査区設定図

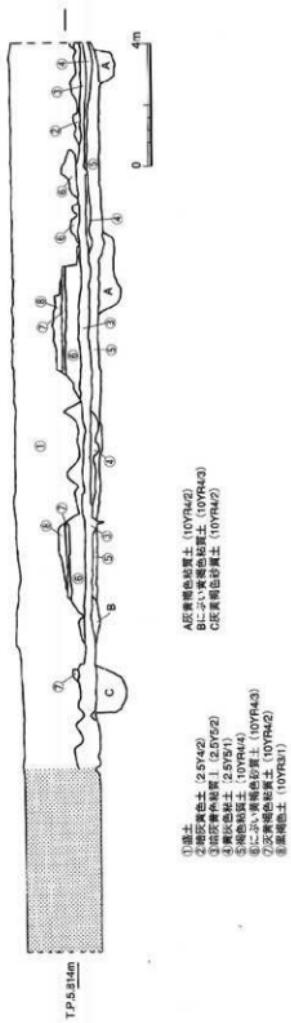


图16 土层剖面图 (编1/80、横1/160)

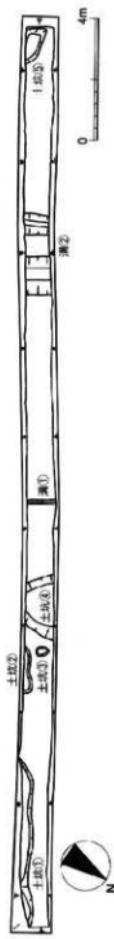


图17 土壤平面图 (1/160)

9. 位置と環境

今回の調査は、分譲住宅建築に伴う田尻遺跡の遺構確認調査である。田尻遺跡①は、木町の中央部に標高5m～7mにかけて位置する古墳時代から中世にかけての遺物散布地である。これまでに16カ所の調査を実施しているが、各調査の調査面積が狭小なため、遺跡の性格は不明である。これまでの調査で弥生時代や古墳時代～奈良時代ころと思われる小規模な溝、中世から近世にかけての粘土採掘坑などが検出されている。弥生土器・須恵器・土師器・瓦器・陶磁器・瓦など弥生時代から近世にかけての遺物が出土している。また、調査地付近には夫婦池遺跡②があり、同遺跡は田尻町の南部、泉佐野市とにまたがる、標高7m～9mにかけて位置する弥生時代から古墳時代にかけての遺物散布地である。これまでに泉佐野市教育委員会による同遺跡の調査で溝状遺構、井戸・柱穴群、スキ溝が検出されている。弥生土器・土師器・須恵器・瓦器・陶磁器などが出土している。

今回の調査地は田尻遺跡①の中心部に位置するため弥生～古墳時代にかけての溝や中世以降の粘土採掘坑などの遺構の存在する可能性があると思われる地点である。

10. 調査の概要

調査は、下水道管埋設予定部分に1.2m×30mの調査区を設定し、重機と人力を併用して掘削し、遺物・遺構の検出につとめた。調査区の基本層序は、上から盛上①（層厚約70cm）、旧耕上⑧（10YR3/1、層厚約12cm）、灰黄褐色粘質土⑦（10YR4/2、層厚約6cm）、にぶい黄褐色砂質土⑥（10YR4/3、層厚約26cm）、暗灰黄色粘質土③（2.5Y5/2、層厚約12cm）、黄灰色粘土④（2.5Y5/1、層



図18 土坑①実測図

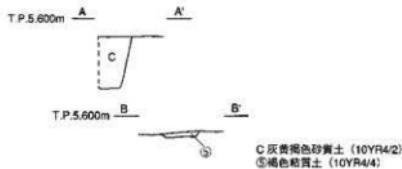


図19 土坑②、③実測図

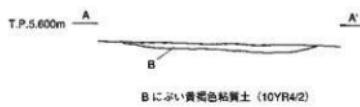
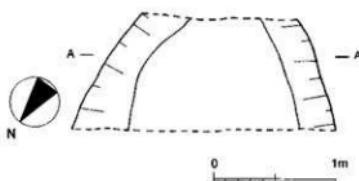


図20 土坑④実測図



厚約8cm)、褐色粘質土⑤(10YR4/4、層厚約20cm)の順に堆積している。

遺物は包含層より土師器、須恵器、瓦器等の土器の細片が出土している。近世土坑より土師器、陶器等の細片が出土している。

遺構は、土坑5、溝2を検出した。

土坑① 調査区の北部で検出した掘り方がほぼ垂直の土坑である。調査区の壁面が崩落したため断面図は実測できなかったが深さ約100cm、検出長約5m60cmを測る。遺構全体の規模は調査区外に延びるため不明である。近隣の調査でも同様の土坑が検出されていて、近世の粘土採掘坑と思われる。遺物は土師器、陶器等の細片が出土している。

土坑② 調査区の中央部で検出した土坑である。深さ約42cm、検出長約1m50cmを測る。遺構全体の規模は調査区外に延びるため不明である。灰黄褐色砂質土が埋積する。遺物は出土していない。

土坑③ 調査区の中央部で検出した土坑である。深さ約16cm、長径約40cm、短径約28cmを測る楕円形の形を呈する。褐色粘質土が埋積する。遺物は出土していない。

土坑④ 調査区中央部で検出した土坑である。深さ約5cm、検出幅約21.6cmを測る。遺構全体の規模は調査区外に延びるため不明である。にぶい黄褐色粘質土が埋積する。遺物は出土していない。

土坑⑤ 調査区南端で検出した土坑である。深さ約26cm、検出長約100cm、検出幅約86cmを測る。灰黄褐色粘質土が埋積する。遺物は出土していない。

溝① 調査区中央部で検出した南東から北西方向に延びる溝である。

深さ12cm、検出長94cmを測る。暗灰黄色粘質土が埋積する。遺物は出土していない。

溝② 調査区南部で検出した南東から北西方向に延びる溝である。深さ約39cm、検出長84cmを測る。灰黄褐色粘質土が埋積する。遺物は出土していない。

11. 調査のまとめ

今回の調査の結果、これまでの調



A 灰黄褐色粘質土 (10YR4/2)

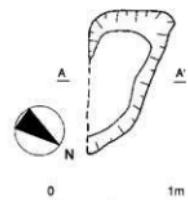


図21 土坑⑤実測図



③暗灰黄色粘質土 (2.5YR5/2)

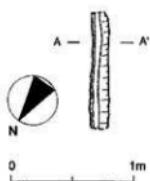


図22 溝①実測図



A 灰黄褐色粘質土 (10YR4/2)

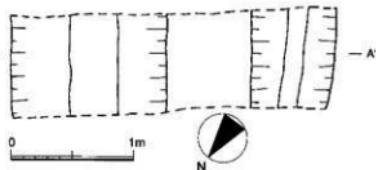


図23 溝②実測図

査の結果と同様に近世の粘土採掘坑を検出した。この田尻遺跡においては、近世にかなり大掛かりな粘土採掘がおこなわれていたようであり、黄橙色粘質土を採掘していたと思われる。しかし、現在のところ採掘した粘土をどのような用途に利用したかは不明であり、今後の聞き取り調査を行うことによって明らかにされることを期したい。

また、今回の調査で中世以前の造構として溝や不定形な土坑が検出されたことは、これまでの調査で弥生時代から古墳時代にかけての溝などが付近から検出されていることもあり、弥生時代から中世にかけての造構の存在する可能性が高く、付近の更なる調査の進展によって、田尻遺跡の性格が明確になることを期すものである。

各種開発確認調査05

1. 遺跡名 田尻遺跡
2. 申請者 個人
3. 調査地 田尻町大字吉見145-5
4. 調査原因 個人住宅の建築
5. 申請面積 211.54m²
6. 調査面積 6m²
7. 調査期間 平成14年9月3日
8. 調査機関名 田尻町教育委員会
9. 位置と環境

今回の調査は、個人住宅の建築に伴う造構確認調査である。今回の調査は田尻遺跡第18次調査にある。

田尻遺跡①は、本町の中央部に標高5m～7mにかけて位置する古墳時代から中世にかけての遺物散布地である。これまでに17カ所の調査を実施しているが、各調査の調査面積が狭小なため、遺跡の性格は不明である。これまでの調査で、弥生時代や古墳時代～奈良時代ころと思われる小規模な溝、中世から近世にかけての粘土採掘坑などが検出されている。同遺跡からは、弥生時代から近世にかけての弥生土器・須恵器・土師器・瓦器・陶磁器・瓦などの遺物が出土している。

また、調査地付近には夫婦池遺跡②があり、同遺跡は田尻町の南部、泉佐野市とにまたがる、標高7m～9mにかけて位置する弥生時代から古墳時代にかけての遺物散布地である。これまでに

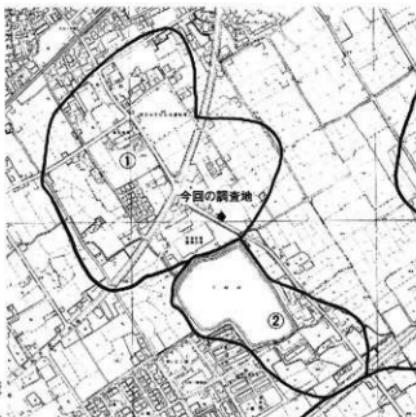


図24 調査地点位置図 (1/10,000)

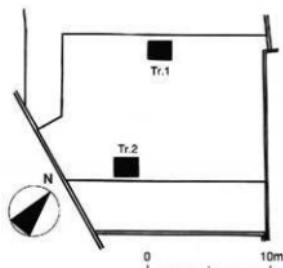


図25 調査区設定図

泉佐野市教育委員会による同遺跡の調査で溝状遺構、井戸、柱穴群、スキ溝が検出されている。弥生土器、土師器、須恵器、瓦器、陶磁器などが出土している。

10. 調査の概要

調査地は弥生時代～近世にかけての遺構等の存在する可能性があると思われる地点であ

り、申請地に2m×1mの調査区を2ヶ所設定し調査を実施した。現況が田畠であるので人力により掘削し、遺物・遺構の検出につとめた。調査区の基本層序は、上から①耕土（2.5Y3/2、層厚約20cm）、②灰黃褐色土（10YR4/2、層厚約13cm）、③暗灰黃褐色土（2.5Y4/2、層厚約10cm）、④暗灰黃色粘質土（2.5Y5/2、層厚約10cm）、⑤褐色粘質土（10YR4/4、褐色粘質土）、地山の順に堆積している。遺構は検出できなかった。遺物は、土師器、須恵器、羽釜片等が出土している。

11. 調査のまとめ

今回の調査の結果、当初想定していた土坑や溝等の遺構は検出できなかった。しかし、包含層より、中世期の遺物の細片が出土していることから、また、既往の調査の結果から付近には遺構が存在する可能性が高いことが判明した。

今後の周辺部での調査の進展により明らかにされることを期したい。

各種開発確認調査06

1. 遺跡名 範囲外
2. 申請者 田尻町長 水野 和夫
3. 調査地 田尻町大字嘉祥寺423番地
4. 調査原因 保育所の建設
5. 申請面積 2,860m²
6. 調査面積 150m²
7. 調査期間 平成14年9月5日
～9月9日
8. 調査機関名 田尻町教育委員会
9. 位置と環境

今回の調査は、田尻町立幼稚園・保育所の新築工事に伴う開発確認調査である。

調査地付近には吉見藩陣屋跡⑦や林寄遺跡⑧がある。吉見藩陣屋跡⑦は、田尻町の北部、旧街道（孝子越街道）沿いの標高4m～5mに位置する中世～近世にかけての遺物散布地である。これまでの調査では、粘土探掘坑などが検出されている。遺物は、土師器、須恵器、瓦器、陶磁器が出土している。林寄遺跡⑧は、田尻町の北部、旧街道（孝子越街道）沿いの標高2m～4mに位置

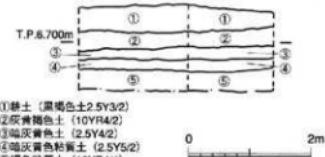


図26 調査区層序図（縦1/40、横1/80）

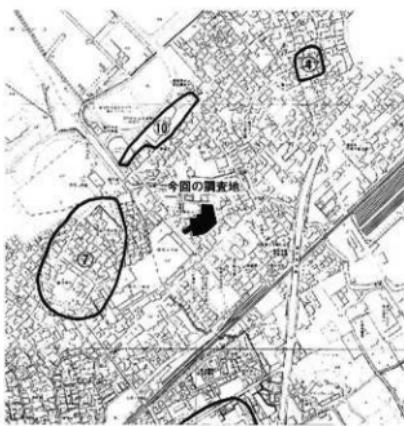


図27 調査地点位置図（1/10,000）

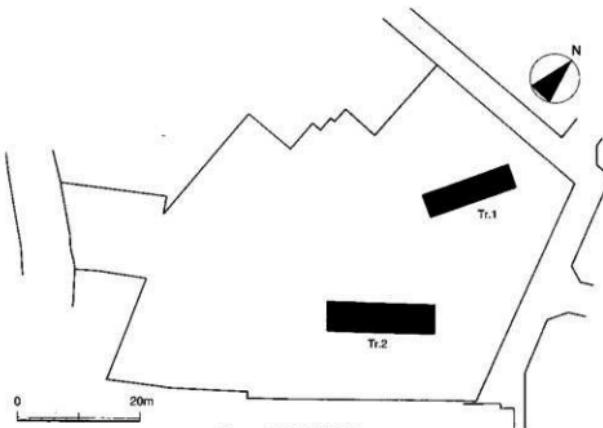


図28 調査区設定図

する近世墓地跡である。近代に紡績工場建設のために移転された。これまでの調査により土坑、スキ溝などが検出されている。遺物は、陶磁器のほか弥生土器、土師器、墓石の一部が出土している。

調査地付近には吉
兒藩陣屋跡⑦や林哥
遺跡⑩があり、中世
から近世にかけての
遺構等の存在する可
能性があると思われ
る地点である。

10. 調査の概要

調査は、校舎建設
予定地内中央部に4

$m \times 15m$ のトレント1と $5m \times 18m$ のトレント2とを設定し、重機と人力を併用して掘削し、遺
物・遺構の検出につとめた。

トレント1の層序は、上から①盛土（層厚約60cm）、②黒褐色土（2.5Y3/2、層厚約30cm）、③
オリーブ黒色砂質土（5Y3/1、層厚約30cm）、④オリーブ黑色砂（5Y3/1、層厚約24cm）、⑤
黒褐色粘土（2.5Y3/1、層厚約20cm）、⑥灰オリーブ色粘土（5Y4/2）の順に堆積している。湧水が著しいため
地山面まで到達できず、遺構は検出できなかった。遺物は出土していない。

11. 調査のまとめ

今回の調査の結果、遺構、遺物は確認できなかったが、今後の周辺部での調査の進展により明
らかにされることを期したい。

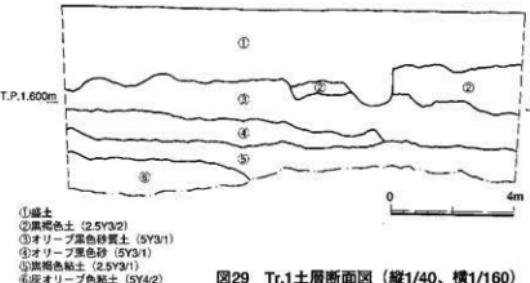


図29 Tr.1土層断面図（縦1/40、横1/160）

各種開発確認調査07

1. 遺跡名 範囲外
2. 申請者 田尻町長 水野 和夫
3. 調査地 田尻町大字嘉祥寺
375番地の1
4. 調査原因 町営住宅の建設
5. 申請面積 7,449.8m²
6. 調査面積 60m²
7. 調査期間 平成14年11月5日
～11月6日
8. 調査機関名 田尻町教育委員会
9. 位置と環境

今回の調査は、町営住宅建設に伴う開発確認調査である。

調査地付近には田尻遺跡

- ①、吉見藩陣屋跡⑦、林寄遺跡⑩がある。

田尻遺跡①は、本町の中央部に標高5m～7mにかけて位置する古墳時代から中世にかけての遺物散布地である。これまでに11カ所の調査を実施しているが、各調査の調査面積が狭小なため、遺跡の性格は不明である。これまでの調査で中

世から近世にかけての粘土採掘坑や古墳時代から奈良時代ころと思われる小規模な溝などが、検出されている。須恵器・土師器・瓦器・陶磁器・瓦などの古墳時代から近世にかけての遺物が出土している。吉見藩陣屋跡⑦は田尻町の北部、旧街道（孝子越街道）沿いの標高4m～5mに位置する中世～近世にかけての遺物散布地である。これまでの調査では、粘土採掘坑などが検出されている。遺物は、土師器、須恵器、瓦器、陶磁器が出土している。林寄遺跡⑩は田尻町の北部、旧街道（孝子越街道）沿いの標高2m～4mに位置する近世墓地跡である。近代に紡績工場建設のために移転された。これまでの調査により土坑、スキ溝などが検出されている。遺物は、陶磁器のほか甕生土器、土師器が出土している。

10. 調査の概要

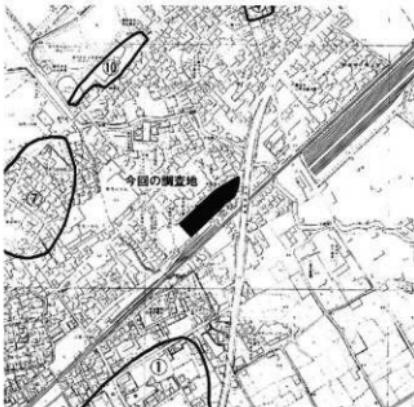


図30 調査地点位置図 (1/10,000)

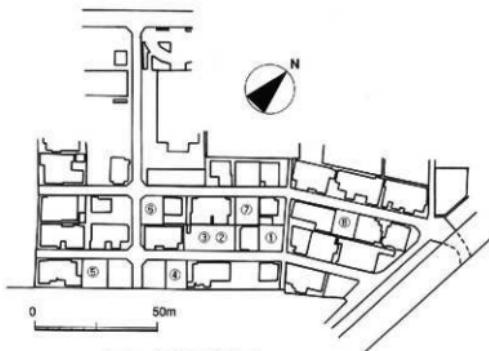


図31 調査区設定図

調査は、現在の町営住宅敷地内で空地となっている場所に $1.5\text{m} \times 5\text{m}$ のトレンチを8ヶ所設定し、約60mについて調査を実施した。主に重機により掘削し、遺構と遺物の検出に努めた。各トレンチの概要は下記のとおりである。

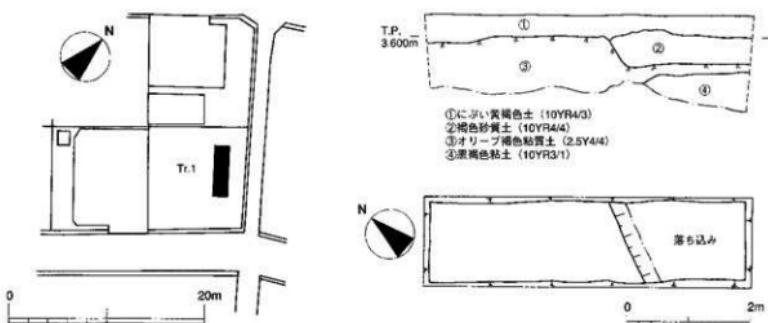


図32 トレンチ1設定図・断面図（縦1/40、横1/80）・平面図（1/80）

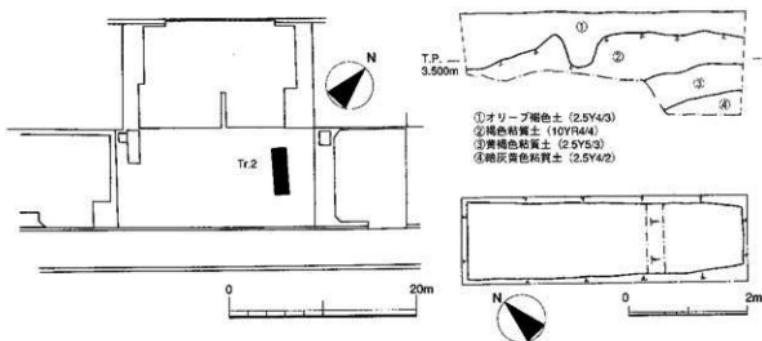


図33 トレンチ2設定図・断面図（縦1/40、横1/80）・平面図（1/80）

トレンチ1は町営住宅敷地内中央部に設置した調査区である。トレンチ1の層序は上から①にじい黄褐色土 (10YR4/3、厚さ約20cm)、③オリーブ褐色粘質土 (2.5Y4/4、厚さ約40cm)、④黒褐色粘土 (10YR3/1)が堆積している。トレンチの東部で落ち込みがあり、②褐色砂質土 (10YR4/4、厚さ約20cm)が堆積している。南側で落ち込みを確認したが、遺物は出土していない。

トレンチ2は町営住宅敷地内中央部に設置した調査区である。トレンチ2の層序は上から①オリーブ褐色土 (2.5Y4/3、厚さ約20cm)、②褐色粘質土 (10YR4/4、厚さ約40cm)、③黄褐色粘質土 (2.5Y5/3、厚さ約25cm)、さらにその下に暗灰黄色粘質土 (2.5Y4/2)が堆積している。遺構は検出されず、遺物も出土していない。

トレンチ3は町営住宅敷地内中央部に設置した調査区である。トレンチ3の層序は上から①灰

色土（7.5Y5/1、層厚約20cm）、②にぶい黄褐色粘質土（10YR4/3、層厚約50cm）が堆積している。遺構は検出されず、遺物も出土していない。

トレンチ4は町営住宅敷地内南部に設置した調査区である。トレンチ4の層序は上から①黒色土（10YR2/1、層厚約15cm）、②褐色粘質土（10YR4/4、層厚約60cm）が堆積している。さらにその下層ににぶい黄褐色細砂（10YR4/3）の堆積を確認した。遺構は検出されず、遺物も出土していない。

トレンチ5は町営住宅敷地内南部に設置した調査区である。トレンチ5の層序は上から①灰褐色土（7.5YR4/2、層厚約20cm）、②灰黄褐色砂質土（10YR4/2、層厚約15cm）、③暗灰黄色粘質土（2.5Y4/2、層厚約20cm）、④にぶい黄褐色粘質土（10YR4/3、層厚約15cm）、⑤暗灰黄色粘質土（2.5Y4/2）が堆積している。遺構は検出できなかつたが、遺物は土師器の細片が出土し

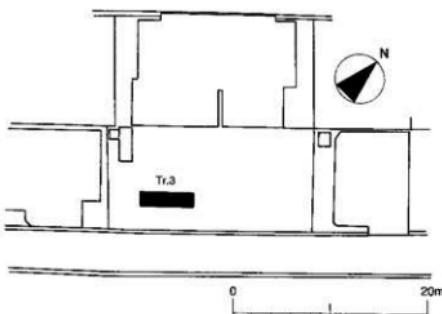


図34 トレンチ3設定図

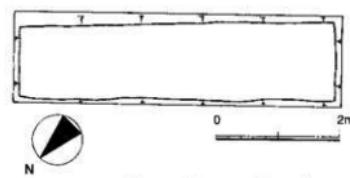
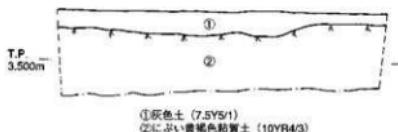


図35 トレンチ3断面図（縦1/40、横1/80）
・平面図（1/80）

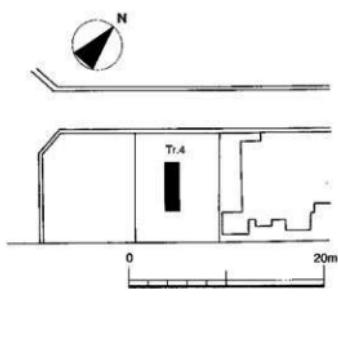
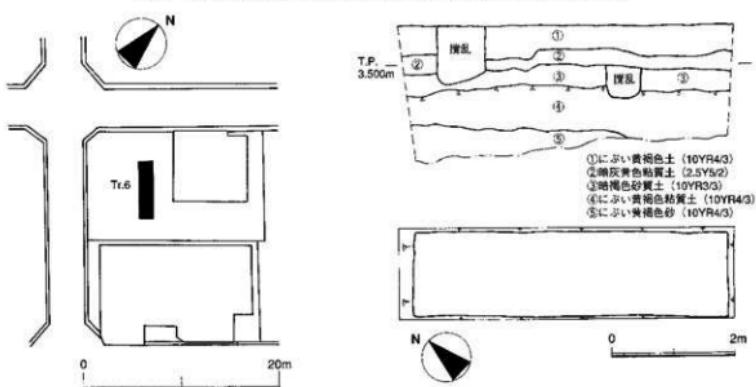
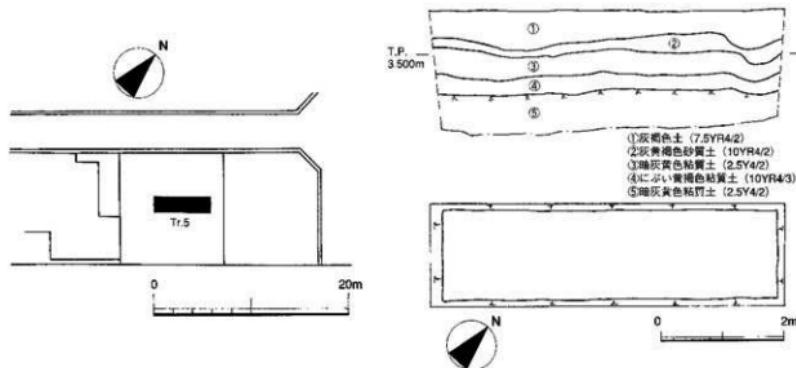


図36 トレンチ4設定図・断面図（縦1/40、横1/80）・平面図（1/80）



ている。

トレンチ6は町営住宅敷地内西部に設置した調査区である。トレンチ6の層序は上から①にぶい黄褐色土（10YR4/3、層厚約20cm）、②暗灰黄色粘質土（2.5Y5/2、層厚約10cm）、③暗褐色砂質土（10YR3/3、層厚約18cm）、④にぶい黄褐色粘質土（10YR4/3、層厚約40cm）が堆積している。さらにその下層に⑤にぶい黄褐色砂（10YR4/3）の堆積を確認した。遺構は検出されず、遺物も出土していない。

トレンチ7は町営住宅敷地内中央部に設置した調査区である。トレンチ7の層序は上から①表土（層厚約10cm）、②にぶい黄褐色土（10YR4/3、層厚約30cm）、③褐色砂質土（10YR4/4、層厚約36cm）、④暗灰黄色粘質土（2.5Y5/2、層厚約4cm）の順に堆積している。さらにその下層には

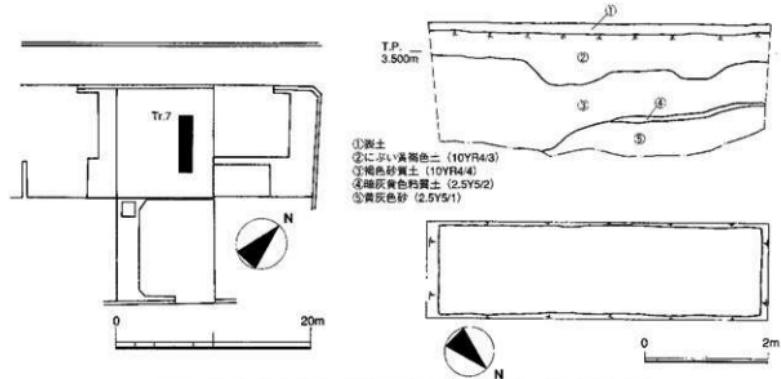


図39 レンチ7設定図・断面図(縦1/40、横1/80)・平面図(1/80)

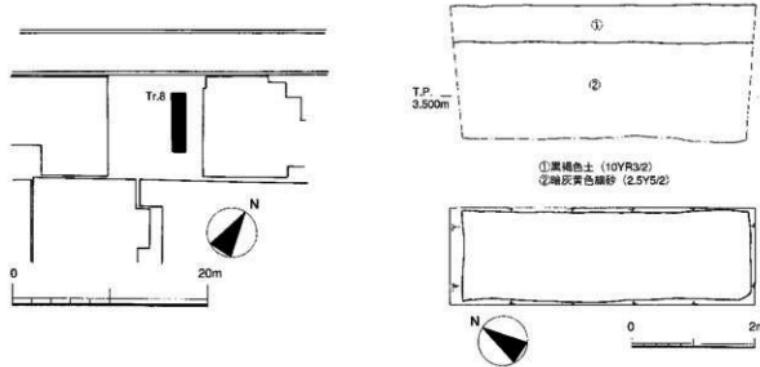


図40 レンチ8設定図・断面図(縦1/40、横1/80)・平面図(1/80)

⑤黄灰色砂 (2.5Y5/1) が堆積している。遺構は検出されず、遺物も出土していない。

レンチ 8 は町営住宅敷地内北部に設置した調査区である。レンチ 8 の層序は上から①黒褐色土 (10YR3/2、層厚約30cm) で、その下層には②暗灰黄色細砂 (2.5Y5/2) が堆積している。遺構は検出されず遺物も出土していない。

11. 調査のまとめ

今回、調査区を 8ヶ所設定して遺構、遺物の有無の確認調査を実施した結果、レンチ 5 を除き遺構の検出、遺物の散布は認められなかった。レンチ 5 を除く調査区付近は堆積の薄い表土を掘削するとすぐに地山であることから、現在建っている町営住宅建築の時あるいはその前段階の紡績工場が建設された時に整地され削平されたようである。レンチ 5 については遺構は検出できなかったが、遺物は中世期の土器師の細片が出土した。このため、今回の試掘調査では、レンチ 5 西側については再度試掘調査を実施し、遺構、遺物の確認をおこなうこととした。今後の周辺部での調査の進展により明らかにされることを期したい。

図 版



調査地遠景（各種開発確認調査01）



トレンチ1全景（各種開発確認調査01）



トレンチ2全景（各種開発確認調査01）



トレンチ3全景（各種開発確認調査01）



土層堆積状況（各種開発確認調査02）



調査区全景（各種開発確認調査03）



土層堆積状況（各種開発確認調査03）



調査区全景（各種開発確認調査04）



調査区全景（各種開発確認調査04）



土坑①検出状況（各種開発確認調査04）



土坑②・③検出状況（各種開発確認調査04）



土坑④検出状況（各種開発確認調査04）



土坑⑤検出状況（各種開発確認調査04）



溝①検出状況（各種開発確認調査04）



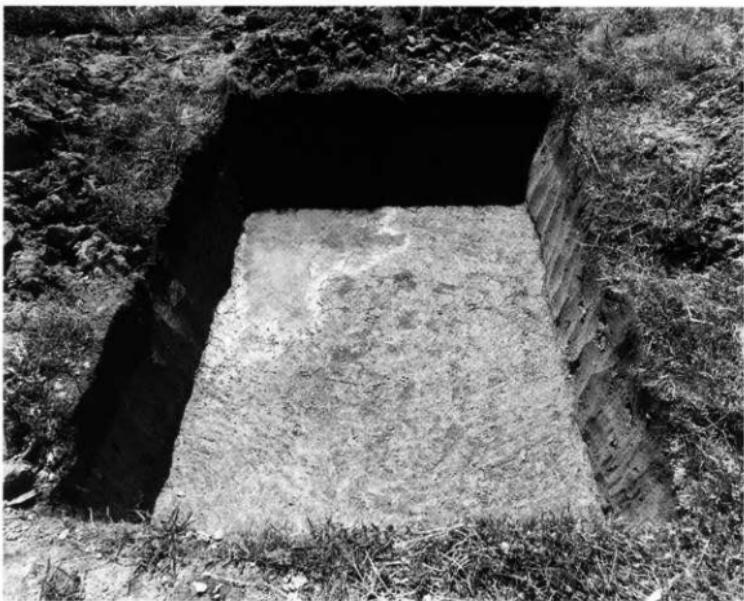
溝②検出状況（各種開発確認調査04）



調査地全景（各種開発確認調査05）



トレンチ1全景（各種開発確認調査05）



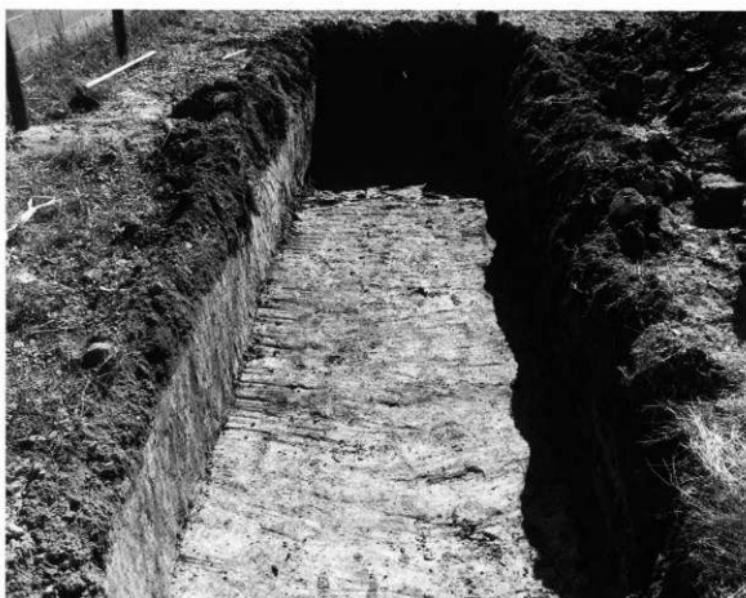
トレンチ2全景（各種開発確認調査05）



トレンチ1全景 (各種開発確認調査06)



トレンチ2全景 (各種開発確認調査06)



トレンチ1全景（各種開発確認調査07）



トレンチ2全景（各種開発確認調査07）



トレンチ3全景（各種開発確認調査07）



トレンチ4全景（各種開発確認調査07）



トレンチ5全景（各種開発確認調査07）



トレンチ6全景（各種開発確認調査07）



トレンチ7全景（各種開発確認調査07）



トレンチ8全景（各種開発確認調査07）

報告書抄録

ふりがな	たじわちょうないいせきぐんはつくつちょうさがいよう							
書名	田尻町内遺跡群発掘調査概要							
副書名								
卷次	4							
シリーズ名	田尻町文化財調査報告							
シリーズ番号	第9集							
編著者名	中野 篤史							
編集機関	泉南郡田尻町教育委員会							
所在地	大阪府泉南郡田尻町大字嘉祥寺375番地の1							
発行年月日	2003年3月31日							
所取遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
遺跡外①	おおさかみ 大阪府 せんなんぐん 泉南郡 たじわらちょう 田尻町 かしょうじ 嘉祥寺			34° 23' 580"	135° 17' 425"	平成14年 4月18日	15	仮設校舎の 建築
遺跡外②	おおさかみ 大阪府 せんなんぐん 泉南郡 たじわらちょう 田尻町 かしょうじ 嘉祥寺			34° 23' 700"	135° 17' 348"	平成14年 4月29日	2	共同住宅の 建築
遺跡外③	おおさかみ 大阪府 せんなんぐん 泉南郡 たじわらちょう 田尻町 かしょくみ 吉見			34° 23' 585"	135° 17' 328"	平成14年 7月25日	7.5	下足室の建 築
田尻遺跡 (第17次)	おおさかみ 大阪府 せんなんぐん 泉南郡 たじわらちょう 田尻町 かしょくみ 吉見			34° 23' 316"	135° 17' 444"	平成14年 7月30日～ 8月1日	36	分譲住宅の 建築
田尻遺跡 (第18次)	おおさかみ 大阪府 せんなんぐん 泉南郡 たじわらちょう 田尻町 かしょくみ 吉見			34° 23' 258"	135° 17' 545"	平成14年 9月3日	6	個人住宅の 建築
遺跡外④	おおさかみ 大阪府 せんなんぐん 泉南郡 たじわらちょう 田尻町 かしょうじ 嘉祥寺			34° 23' 680"	135° 17' 437"	平成14年 9月5日～ 9月9日	150	保育所の建 設
遺跡外⑤	おおさかみ 大阪府 せんなんぐん 泉南郡 たじわらちょう 田尻町 かしょうじ 嘉祥寺			34° 23' 616"	135° 17' 507"	平成14年 11月5日～ 11月6日	60	町営住宅の 建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
遺跡外①			なし	土師器	
遺跡外②			なし	なし	
遺跡外③			なし	土師器、黒色土器、瓦器	
田尻遺跡 (第17次)	散布地	古墳～中世	土坑5、溝2	土師器、陶磁器	
田尻遺跡 (第18次)	散布地	古墳～中世	なし	土師器、須恵器	
遺跡外④			なし	なし	
遺跡外⑤			なし	土師器	

田尻町文化財調査報告 第9集

田尻町内遺跡群発掘調査概要 4

2003年3月

編集・発行 泉南郡田尻町教育委員会

〒598-8588

大阪府泉南郡田尻町大字嘉祥寺375番地の1

TEL0724-66-1000（代表）

印 刷 株式会社小笠原印刷

大阪府泉佐野市上瓦屋646番地

